

個人山行報告書

通算山行NO	NO. 378B	報告者	山本佳樹
年月日	2009年04月12日(日)	2万5千	白馬
山名	北ア・白馬乗鞍岳(2456m)山の神尾根		
体力度 = 4・やや厳しい 技術度 = 4・やや難しい 道標 = あり 駐車場 = 梅池ゴンドラ前(無料) トイレ = ゴンドラ乗り場 展望度 = 素晴らしい 三角点名 = 乗鞍岳 等級 = 二等三角点			
<h2>山スキーの古典コースを楽しむ</h2>			
コースとタイム	起床4:30 - 「やまじゅう山荘」朝食6:30 - 8:00 ゴンドラ - 8:20 ゴンドラ終点 - 10:50 白馬乗鞍頂上 - 滑降 山ノ神尾根 14:30 白馬乗鞍スキー場(下山) - 14:40 若駒の湯(休憩、タクシー待ち) - 15:30 ゴンドラベース(タクシー) - 15:40 元梅の湯 - 16:00 発 20:00 帰静(御殿場)(渋滞のため一宮ICより御坂、河口湖経由)		
標高差	上り = 梅ノ森約1580m ~ 白馬・乗鞍岳2456m = 約876m 下り = 白馬・乗鞍岳2456m ~ 白馬乗鞍スキー場約900m = 1556m		
参加者	L 後藤隆徳(62) 山本佳樹(42)		



4:30 ごろ起床準備とウォームアップ。6:30 朝食。7:30 頃よりリフトの列に並ぶ。8:00 ジャストにゴンドラ始動。後藤さんとゴンドラ一番乗り。8:20 ゴンドラ終点よりシールをつけ登高開始。歩きはじめて15分ほどでショックなことが起きる。なんとわれわれの上空をロープウェイが悠々と横切っていくではないか。実はロープウェイも営業していたのだ。

気を取り直して、歩みを進めるも、気のせいかな後藤さんの歩みがペースアップしたような気がした。これについていかねばと焦る。汗が噴き出してくる。朝からカンカン照りも、昨日の日焼け後が痛み、長袖が脱げない。とにかく暑い。サングラスも真っ白に曇り視界を妨げるも、雪盲になり

りそうではずすわけにいかず。昨日つくった両踵のママが一步一步痛む。樹林を抜け、天狗ヶ原の手前の斜面を急登。天狗ヶ原に出て、やっと風もでて、涼しくなった。しかし、ママは痛む。白乗の大斜面を急登。後藤さんに遅れをとり、11:00 過ぎ登頂。頂上は天気もよく、視界良好だった。ここで、15分程休憩し、白乗の大斜面を山の神尾根に向かって滑降開始。

雪は重く、トレースで荒らされているが、いい斜面だ。山の神尾根に入ると、斜度はほとんどフラットになり、ガイドに連れられた10人ばかりのツアー客たちと、前後しながら進んだ。後藤さんのお気に入りのダケカンバのあるいつもの所で休憩。静かだが、日差しに春の訪れを感じる。

樹林の中を看板を目印に進むが、いつの間にかブナ林となった。沢に入り、大きな堰堤の左岸を苦労して抜けるとそこは、雪解けて、牛フンの転がる、春ののどかな乗鞍スキー場だった。

なお、「やまじゅう山荘」で朝食時、主人から一冊の本を頂いた。主人は「山をやっている人」に読んで貰いたいと言った。

「ヒマラヤ一つの峰の物語」宮澤 憲著 東京新聞出版局 上製本 301P 主人の叔父さんが東京農大出身の登山家で、昭和23年、「風雪のビバーク」で有名な松濤明（まつなみ あきら）と北岳バットレス中央稜を初登攀した方だった。まだまだ、82歳でご健在だそうです。



岳樺も春



いつもの所で休憩



やまじゅう山荘



黒川沢下部